

地球温暖化の健康への影響

今冬の平均気温は東・西日本では平年並み、北日本では平年より低く、暖冬と予想されていたのが外れてしまいました。これからの季節はどうでしょうか。過去100年間をみると、地球の平均気温は0.6（日本では約1）上昇し、地球温暖化が徐々に進行しています。

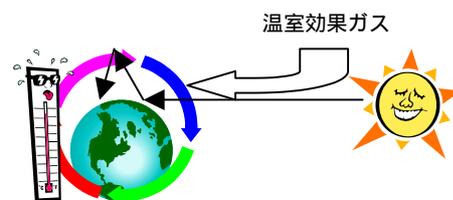
温暖化の原因は、人間の活動の中から排出される二酸化炭素（CO₂）、メタン、窒素酸化物などの増加です。これらのガスは、地表で反射されて宇宙に放出されるはずの太陽熱を吸収して大気中の温度を上げてしまうことから、温室効果ガスと呼ばれています（図）。

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、100年後にはさらに世界の平均気温が1.4～5.8、海面水位が最大88cm上昇することを予測しています。海拔の低い国は国土の一部あるいは全部が水没してしまいます。日本では人口や産業が沿岸地域に集まっているので、海面上昇による高潮などが人や社会・経済に多大な被害を与えられられています。また、美しい砂浜も65cmの海面上昇で80%が消失すると予測されています。

温暖化による人間の健康への影響についてみると、猛暑や熱波の発生で熱中症やその他の疾病の罹患が顕著に増加します。温暖化は洪水、暴雨風、干ばつなどの異常気象を増加させ、洪水発生後の衛生状況の悪化などにより、サルモネラ、コレラ、ジアルジア症などの水系感染症の増加が予測されています。

また、頻繁に起こる異常気象は、農業生産性や飲料水確保にも悪影響を及ぼし、特に、熱帯と亜熱帯の発展途上国では、飢えに苦しみ、栄養失調で死んでいく人が増大することが危惧されています。

気温の上昇は、蚊などの媒介性動物の活動地域を拡大させ、マラリアやデング熱などの熱帯性の感染症が増加します。特にマラリアは現在、世界で年間3～5億人の感染者がいるといわれていますが、3～5の気温上昇で、流行危険地域が西日本を含む温帯地域まで拡大し、毎年5～8千万人の感染者が増加すると推定されています。



（図）地球温暖化の原因

温暖化を抑えるには温室効果ガスの排出量を減らすしかありません。先進国の温室効果ガスの排出削減目標を定めた京都議定書で、日本は2008～2012年の期間中に温室効果ガス排出量を1990年より6%削減するよう求められています。日本全体のCO₂排出量の約20～25%は家庭生活の中から排出されています。マイカーの使用を控えたり、ごみの排出量や電力の消費量を少なくしたり、一人一人が省エネに取り組むことも温暖化防止のためには必要です。（企画情報科）